

Incidence of comprehensive hospitalization due to infection, cardiovascular disease, fractures, and malignancies in patients with rheumatoid arthritis

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 杉本, 直樹 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032096

主論文の要約

Incidence of comprehensive hospitalization due to infection, cardiovascular disease, fractures, and malignancies in patients with rheumatoid arthritis

(関節リウマチ患者における感染症、心血管障害、骨折、悪性腫瘍を含めた合併症による入院についての包括的な検討)

東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター

(指導：山中 寿 教授) ㊞

杉本 直樹

Rheumatol Int. 2017 Sep 7. doi: 10.1007/s00296-017-3811-5.

[Epub ahead of print]

【目的】

関節リウマチ (RA) に伴う多彩な合併症は、短期的・長期的な疾患の経過や予後に強く影響することが報告されている。RA 患者の合併症について、個々の合併症についてはこれまでに報告されてきているが、包括的に報告されたものはない。本研究では RA 患者における合併症について、入院という観点から包括的な検討を行った。

【対象および方法】

対象は第 19 回 IORRA 調査 (2009 年 10 月施行) に登録された RA 患者である。方法は対象 RA 患者を 1 年間前向きに観察し、合併症による入院を患者・家族からの申告、関連病院を含めた医師による報告から抽出し、医療記録で確認をした。RA 患者における合併症による入院について、全体および原因別での頻度を算出した。また感染症による入院について、部位別に頻度を算出し、危険因子を多変量ロジスティック回帰で解析した。

【結果】

RA 患者 5,519 人 (5,336.5 人年) の観察において、435 件の入院 (8.15 件/100 人年) がみられた。原因別での最多は感染症 (1.52 件/100 人年) であり、悪性腫瘍 (1.03 件/100 人年、うち悪性リンパ腫 0.22 件/100 人年)、心血管障

害（0.84 件/100 人年、うち急性冠症候群 0.22 件/100 人年）、骨折（0.77 件/100 人年）、関節外症状（血管炎および間質性肺炎、0.78 件/100 人年）が続いた。感染症の部位別で最多は呼吸器系感染症（0.77 件/100 人年）であり、およそ 1/2 を占めた。感染症による入院の危険因子は、年齢（オッズ比 1.03; 95%信頼区間 1.00-1.05）、血清アルブミン値（オッズ比 0.30; 95%信頼区間 0.13-0.69）、ステロイド使用（プレドニゾロン > 5 mg/日）（オッズ比 3.66; 95%信頼区間 1.81-7.35）であった。

【考 察】

本研究で RA 患者における合併症による入院の現状が明らかとなった。RA 患者における合併症での入院の原因として、感染症、悪性腫瘍、心血管障害（急性冠症候群）、骨折、関節外症状が半分強を占めた（53.0%）。感染症による入院は、米国において同様の RA 患者・年代を対象に行われた CORRONA レジストリからの報告（感染症による入院 0.8 件/100 人年、呼吸器系疾患 50.6%）とほぼ同等の結果であった。ステロイド使用は、感染症の危険因子であるとともに骨折のリスクともなり、日常診療において十分な配慮を要するものである。悪性リンパ腫や急性冠症候群による高い入院リスクが明らかになったが、これらは今後の RA 治療の発展や最適化をすすめていくなかで課題となる重要な合併症である。

【結 論】

本研究で RA 患者における様々な合併症による入院の実態が示された。本研究の結果は、RA 治療の今後の改善を評価していくうえで基盤になるデータとなる。